

平成 27 年度

北海道ボランティア・レンジャー育成研修会実施記録

主 催：野幌森林公園 自然ふれあい交流館（指定管理者：一般財団法人北海道歴史文化財団）

共 催：北海道ボランティア・レンジャー協議会

開催期間：平成 27 年 10 月 2 日（金）～4 日（日）

受講者数：13 名

プログラム

10 月 2 日（金）第 1 日目 10：00～19：00

（1）開講式 主催者等挨拶

司会 自然ふれあい交流館副館長 松井氏の司会進行により育成研修会開会

挨拶（自然ふれあい交流館長 氏家氏・北海道ボランティア・レンジャー協議会副会長 小林氏）
より開会の挨拶



（2）野外実習（アウトドアゲーム）

～自然とのふれあいを楽しむ～ （自然ふれあい交流館 スタッフ）

アイスブレイキング手法で参加者の緊張感を徐々に解きほぐしながら、自己紹介をしグループ結成の雰囲気を出した。

内容：全員椅子、その場にある草花を持ち寄り三人俳句、人工物発見のゲーム等を行い自然観察の手法等。





(2) 救急法（普通救命講習）

講師：江別市消防本部

これから、野外活動を行う際に如何に救急措置が大切であることをスライドで解説した。救命の連鎖：予防、早期認識と通報、一次救命処置、二次救命処置と心拍再開後の集中治療。初期処置が大切であり、これらの四つの条件がお互いに連結していることの重要性について解説された。

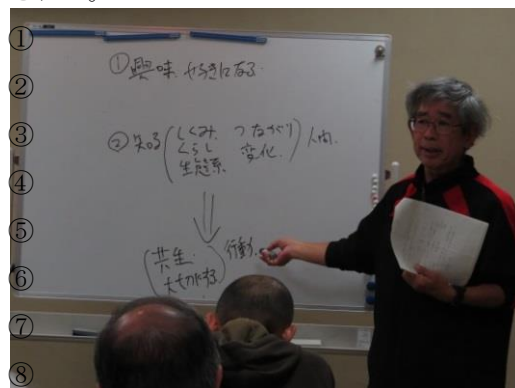
心肺蘇生法（AED）、異物除去法、止血法、骨折に対する応急手当等の実習等をとおしてこれからの野外観察会での救急措置を学んだ。



(4) 講義[自然ガイドで何を伝えるか]

講師：島田明英氏（自然ウォッチングセンター 代表）

実物の植物の葉等を見せながらボランティア・レンジャーとは何か、自然について、何を伝えたいか、どんな活動をするのか、観察会の参加者に興味を持たせる手法について説明された。



⑨ 興味、好きになる

直接体験（五感をとおして見る、聴く、触る、味、匂）

⑩ 知る（仕組み、つながり、暮らし、変化、生態）

⑪ 何を取り上げるか

面白いもの、図鑑の説明ではなく実体験、テクニック、目の前にあるもの、あれもこれもと出し過ぎない

（５）野外実習[ナイトウォッチング] （自然ふれあい交流館 スタッフ）

小雨の中、街灯のない暗黒の森林公園に案内し、距離感、人間の耳では聞くことのできないコウモリの声（超音波受信機）等を聴き昼と夜の違いを参加者は実感、貴重な体験をした。



10月3日（土）第2日目

（１）講義[リスクマネジメント]講師：五十嵐一夫氏（北海道ボランティア・レンジャー協議会）

① 気づかなければいけないリスク

自然現象：天気 地震、土砂崩れ、大雨、増水、落石、雪崩、火災

動植物：ヒグマ、マムシ、ハチ、ウルシ

② 事故の事例

雪崩や低体温症、遠足などでの動物による事故

③ 事故に到らないために

常にリスク意識を感じ取る能力を高める

④ スズメバチによる事故

スズメバチの種類、スズメバチが人を襲うメカニズム、襲われた場合の対応、その他多くのデータで対応策を説明した。

自然観察会におけるリスクマネジメントについて、多くの事例を紹介しながら如何に事故を未然に防ぐかについて講義した。



(2) 野外実習[自然観察会]

A班、B班、C班の3班体制でエゾユズリハコースで、各班2名のボラレンの講師が引率し植物の解説、森林公園の概要などを説明しながら実習を実施した。



(3) 講義[自然について～森林について～]

講師：三輪礼二郎氏（北海道ボランティア・レンジャー協議会）

1. 野幌の森林の特徴

森林の定義、また野幌森林公園の構成樹種等について

2. 日本の森林帯

日本の森林帯の種類等

3. 森林の形成

森林の変遷について（遷移、極相、陽樹と陰樹、先駆種）

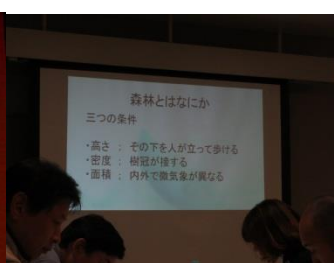
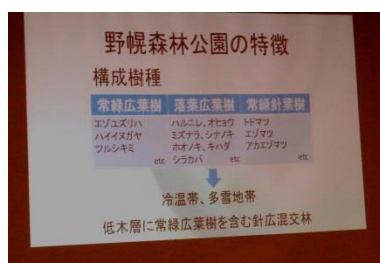
4. 森林の種類

天然林、人工林、2次林、原始林等

5. 森林の生態

食物連鎖、森林の生態系（生産者、分解者、分解者による物質循環等）について

詳細なレジメの中の具体的な植物を取上げ、野幌森林公園の説明、森林の三つの条件など（高木、密度、面積）受講生に問いかけながら森林の特徴を説明した。



(4) 講義[プログラム作成と解説方法（導入）]

講師：安倍隆氏（北海道ボランティア・レンジャー協議会）

すぐ使える学習動機づけ理論 インストラクショナル・デザインについて

ARCS 動機づけモデル



A：注意「おもしろそうだな」 R 関連性「やりがいがありそうだな」
C 自信「やればできそうだな」 S 満足感「やってよかったな」の
教育工学者ケラーのインストラクショナル・デザイン（ARCS 動機づけモデル）を用いた理論を野外観察プログラム作成に応用した理論について講義した。

- (5) 実習[プログラム作成と解説方法] グループワークによる 10 分間ミニ観察会プログラム作成に向けてテーマや資料集め開始



観察会模擬解説

- テーマ「鳥の不思議」 ～鳥と植物と～ （発表者 道場優氏）

工夫を凝らした展示により、ヒヨドリとナナカマドの関係について。

- テーマ「雪虫の生活サイクル」 （発表者 宮本健市氏）

雪虫の種類や多様な生活を取り上げ雪虫の生きざまを紹介した。

- テーマ「植生調査のコドラート調査法」 （発表者 宮津京子氏）

フィールドに区画を設け植生調査に用いるコドラート調査の実演を行った。

- テーマ「土壌植物」 （発表者 小林英世氏）

土壌生物をフルイ等を用い実際に土壌生物を採取し、検索チャートを用い生物の名前等を調べ、目にふれない菌類の話などを取り上げながら解説を行った。

以上3班体制でそれぞれ工夫を凝らした模擬解説の実演を実施した。





9月28日（日）第3日目

（1）実習[プログラム作成] 発表[フィールド発表]

A班：「そんな名前なの?!」植物の名前の由来/植物の特徴を捉える/新しいネーミング

B班：「オオウバユリの不思議」鱗茎、種、アイヌの生活（食料としての利用）風の強さ

C班：「遠くに行きたい〜」種、移動方法、動物と植物の関わり、次世代へ

各グループで全員参加型で綿密な資料集め、計画作成し、実際の観察会以上の発表を行った。



（2）ふりかえり 講師：小林英世氏（北海道ボランティア・レンジャー協会）

各班の発表内容について Keep 良かった点

Problem 問題点

Try 改善点

等をお話してふりかえりの講評をした。



（3）まとめ

講義[北海道ボランティア・レンジャー協会とボランティアを行なうにあたって]

講師：春日順雄氏（北海道ボランティア・レンジャー協会）

〜いい案内人になろう〜

- ① 知識を磨き、案内の技術を磨き、自然観を磨き、センスを磨こう
- ② 案内の技術（いい顔、いい声、いい動き、うなずきと問いかけのある観察会）
- ③ センス（感性）＝感受性
- ④ 自然観について

育成研修会の歴史を含めて、知識を磨き、案内の技術を学び、センスを磨き、いい案内人になろうと、まとめの講義をした。



(4) 閉講式

自然ふれあい交流館 氏家館長による修了証書の授与、挨拶をもって、三日間の育成研修会を終了した。

